

別紙 1 機能要件

			(要件)
1	1	1	サービス提供体制
1	1	1	クラウド型のサービス提供形態とし業務システム、蔵書検索システムともにwebアプリケーションであること。
1	1	2	少なくとも5年以上の使用に十分耐えうる性能を確保すること。
1	1	3	セキュアな運用実現のため、サービスを提供するデータセンターと本機構機器との接続については、暗号化通信(https プロトコル)による運用ができること。
1	1	4	契約期間中にかかるサーバ証明書発行費用及び更新費用を本調達に含めること。発行に必要なCSRファイルの作成等の作業は受注者が行うこと。
1	1	5	準拠法は日本の法律であり、管轄裁判所は日本国内の裁判所であること。
1	1	6	情報資産の所有権がクラウドサービス事業者に移管されるものではないこと。 本機構が要求する任意の時点で情報資産を他の環境に移管させることができること。
1	1	7	機密性及び完全性を確保するためのアクセス制御等の漏洩防止策を講じること。
1	1	8	OSのシステムログ、図書館システムの操作ログ、OPACのアクセスログ等を7日間以上取得し、本機構からの要求があった場合には提供すること。
2			図書館システムについて
2	1		基本要件 本項目は、図書館システム全般において基本的に備えるべき要件を記述する。
2	1	1	キーボード、マウスによる基本操作によって操作できるGUIにより構成されること。
2	1	2	一画面に複数のウィンドウを開き、併行して複数の図書館業務及び表作成などの事務作業が実行できる機能を有すること。
2	1	3	最新のNACSIS-CAT、NACSIS-ILLに対応していること。 導入後においても、本機構と協議の上、同システムの機能変更・機能拡張に対応すること。
2	1	3 1	稼働時点では、がんセンター、小児医療センターでNACSIS-CAT、NACSIS-ILLに対応する設定をおこなうこと
2	1	3 2	稼働後に、他センターでNACSIS-CAT、NACSIS-ILLを使用することとなった場合は、対応を行うこと (設定で利用できるシステムであること)
2	1	4	CAT/ILLへの接続時にはあらかじめ登録したID、パスワードで自動的にログインする機能を有すること。
2	1	5	使用する文字はNIIが多言語対応目録システムで使用するUCSと同一であること。
2	1	6	帳票はPDFのほかに、エクセルで加工可能なテキスト形式で出力されること。
2	1	7	OPACおよびインターネット上に公開するWeb機能はクロスサイトスクリプティング脆弱性に対応したサニタイジング処理が組み込まれていること。
2	1	8	蔵書検索(OPAC)は4つの県立病院(循環器・呼吸器病センター、がんセンター、小児医療センター、精神医療センター)でそれぞれ独立した画面で運用できること。
2	1	8 1	蔵書検索(OPAC)は、病院毎に外部公開・非公開が設定可能であること
2	1	8 2	外部非公開とした場合、指定された固定IPアドレスからのアクセスにおいてのみアクセスが可能であること
2	1	8 3	外部非公開・公開の切替は稼働後においても変更することが可能であること
2	1	9	個人情報を一定数以上ダウンロードする際に、メッセージを表示する機能を有すること。また、指定したメールアドレスに対しその旨メール通知を行う機能を有すること。
2	1	10	各業務画面の日付入力項目においては、カレンダーからの選択入力ができること。統計出力時などに「今年度始め」、「今年度末」等の相対的な日付が指定できること。
2	1	11	各業務機能において検索したデータの一覧表示について、各項目値の表示列を、業務担当者毎に任意で表示・非表示が切り替えられる機能を有すること。また複数の項目をソートキーとして、データ一覧の表示順を切り替えられる機能を有すること。
2	1	12	各業務機能において検索したデータの一覧を表計算ソフトにて加工可能なテキスト形式で出力する機能を有すること。
2	1	13	各業務で行われた処理の結果はOPAC上に即時反映されること。
2	1	14	各種のメール送信結果を画面から検索、照会、ファイル出力できること。 再送信待ちのデータがあればキャンセルすることもできること。

				(要件)
2	1	15		業務利用者ごとに帳票等の抽出条件を動的に変更できること。 抽出条件はプロファイルとして保存でき、簡易な操作で再設定できること。
2	1	16		業務画面で納入者・予算・所在の各項目を入力時に、直接コード値を入力することができること。コード値が不明な場合は、コード値や名称、名称ヨミの一部を入力すると予測値が表示され、簡易な操作で設定できる機能(サジェスト機能)を有すること。入力方法はプルダウン選択方式に変更することも可能なこと。
2	1	17		業務画面の情報を業務利用者ごとに保存する機能を有すること。
2	1	18		業務担当者のアカウント毎に、任意の業務機能をまとめて1画面に表示できるマイページ機能を有すること。機能の追加及び削除は簡易な操作で可能なこと。
2	1	19		業務システムのトップ画面に各業務機能を検索できる検索窓を有すること。
2	1	20		文献複写・貸借、図書購入、予約等の申込みが利用者からあった場合に、業務システムのトップ画面に通知する機能を有すること。
2	1	21		予算コード及び所在コード検索時に、業務利用者の所属に応じて検索対象とするコードが自動的に絞り込まれること。
2	1	22		書誌・所蔵・図書発注・雑誌契約・製本発注・ILL依頼・ILL受付・利用者・予算・納入者の各データベースで保有している項目の他に、本機構独自の項目をコード型・フィールド型でそれぞれ30個以上追加できること。また、項目名の文言やコード値は自由に設定できること。
2	1	23		所蔵、発注、契約等の各データの一括修正が可能なユーティリティ機能を有すること。
2	2			マスタ管理業務
2	2	1		所在情報
2	2	1	1	所在情報は、所在の正式名称、略称、表示順、英語名称、配架図URL、英語配架図URLの管理ができること。
2	2	1	2	ファイル読み込みによる所在情報一括登録機能を有すること。
2	2	2		予算情報
2	2	2	1	予算額を予算コードにより管理する予算テーブルを持ち、各業務での処理に自動で連動し、執行状況をリアルタイムで確認できること。
2	2	2	2	ファイル読み込みによる予算情報一括登録機能を有すること。
2	2	3		納入者情報
2	2	3	1	納入者情報の新規作成・流用作成・修正・削除の各処理が行える機能を有すること。
2	2	3	2	納入者の住所情報について、入力した郵便番号から自動で住所を取得する機能を有すること。
2	2	3	3	ファイル読み込みによる納入者情報一括登録機能を有すること。
2	2	4		通貨情報
2	2	4	1	国別の通貨情報を通貨コードにより管理する通貨テーブルを持ち、図書受入・雑誌受入の業務処理において管理できること。
2	2	4	2	ファイル読み込みによる通貨情報一括登録機能を有すること。
2	2	5		利用者情報
2	2	5	1	利用者情報の登録・更新・削除ができること。
2	2	5	2	利用者カード紛失時など、簡易な操作で利用者IDの変更登録ができること。その際、旧利用者IDの貸出データや予約データなども新利用者IDへ引き継がれること。旧利用者IDもそのままデータとして保持すること。
2	2	5	3	利用者及び保護者の住所情報について、入力した郵便番号から自動で住所を取得する機能を有すること。
2	2	6		利用者情報一括登録・更新・削除
2	2	6	1	ファイル読み込みによる利用者情報一括登録・更新・削除機能を有すること。
2	2	6	2	利用者情報一括更新時に、項目ごとに上書き可否を指定できること。
2	2	6	3	利用者情報一括削除時に、貸出中のデータやILL申込中のデータを保有する利用者はエラーとし、削除されないこと。
2	2	7		業務利用者情報
2	2	7	1	業務利用者情報は図書館システム内で管理できること。
2	2	7	2	業務利用者IDごとに業務システムの操作可否やデータの編集権限等をコントロールできること。なお利用できない機能はメニューも非表示にできること。
2	2	7	3	業務利用者IDごとに他館データの更新・削除権限が付与できること。
2	2	7	4	操作可否権限は業務利用者をグループ化して管理できること。

				(要件)
2	2	7	5	業務利用者ごとに、どの所属図書館のデータを扱えるか設定できること。
2	2	8		番号管理
2	2	8	1	本機構では物品管理上、図書所蔵データ及び製本雑誌データを「資料番号」で管理している。資料番号は、図書所蔵データ及び製本雑誌データに対して一意であること。
2	2	8	2	資料番号は、4つの県立病院（循環器・呼吸器病センター、がんセンター、小児医療センター、精神医療センター）において現行システムで使用しているバーコードラベルを張り替えることなく運用できること。
2	2	8	3	業務システムで使用する各種番号を自動で採番する機能を有すること。
2	2	9		データ管理
2	2	9	1	書誌データの呼び出しにおいては、書名・著者名・キーワード・ISBN・ISSNを含む目録システムでの検索機能を各業務にて備えていること。
2	2	9	2	図書システムで使用する各種動作パラメータ（登録番号の桁数等）の設定ができる管理機能を有すること。
2	3			図書受入業務
2	3	1		包括的要件
2	3	1	1	複数の業務利用者が同時に発注・受入業務を行っても差し支えないシステムであること。
2	3	1	2	NIIと本機構書誌データベースの検索をシームレスに行うことができ、各処理段階における書誌データとして引用できること。またオリジナル作成もできること。
2	3	1	3	所蔵館、処理状態、請求者、書誌事項等の項目を指定して機構内機構内重複調査を行うことができること。設定した検索条件は業務利用者ごとに保存できること。
2	3	1	4	選定・発注・受入の各項目画面で、機構内重複調査時に図書書誌・雑誌書誌を同一画面上でひとつの検索窓から検索する機能を有すること。
2	3	1	5	選定・発注・受入の各画面上で、各項目の初期値を業務利用者ごとに保存できること。
2	3	1	6	ISBNを一括指定し、機構内重複調査を行う機能を有すること。ISBNの指定は、画面上での複数指定またはファイル読込による指定が可能であること。
2	3	1	7	請求記号設定時、既存の請求記号を検索して設定することができること。
2	3	2		選定・発注
2	3	2	1	選定・発注処理を行うことができること。
2	3	2	2	発注保留・発注取消等の処理ができること。発注取消時、取消区分や取消理由が登録でき、請求者がいる場合は取消通知メールが送信されること。
2	3	2	3	継続本の発注データが作成できること。
2	3	2	4	発注残額のチェックを行い、予算残高不足の可能性がある場合は警告のメッセージが表示されること。
2	3	2	5	請求者別に、予算の執行状況(支払済・支払予定・発注中状況)を表示できること。
2	3	2	6	複本購入時、重複調査画面から前回購入時の発注データを流用して発注処理ができること。
2	3	2	7	選定段階のデータを一括で発注できること。
2	3	2	8	テキスト形式のファイルからデータを取り込み、一括で発注データが作成できること。取り込み時に自動で重複チェックを行い、重複している場合は画面上に明示されること。
2	3	3		受入
2	3	3	1	発注データを検索して受入処理ができること。
2	3	3	2	寄贈図書など、発注処理を介さない資料の受入処理ができること。
2	3	3	3	ファイル読込みによる受入データ一括登録機能を有すること。
2	3	3	4	継続本の受入・納品状況が管理できること。
2	3	3	5	受入時に納入金額が未入力の場合は警告が表示されること。
2	3	3	6	受入時に資料番号を手動または自動で採番する機能を有すること。
2	3	3	7	任意の検索集合体を作成し、そこから任意の開始番号を指定して、資料番号を一括付与する機能を有すること。
2	3	3	8	付属資料がある場合、受入時に付属資料データを登録できること。
2	3	4		支払
2	3	4	1	支払準備処理ができること。支払準備処理時に支払準備リストが作成できること。
2	3	4	2	図書・後金雑誌・製本をまとめて支払単位を作成できること。支払単位作成後、支払単位ごとに納入者、予算等の条件を指定して支払できること。
2	3	4	3	支払処理ができること。支払処理時に明細書が作成できること。

				(要件)
2	3	4	4	支払処理時に支払番号を付与できること。支払番号を指定して明細書の出力ができること。
2	3	4	5	資料番号は備消区分毎に番号体系を構築でき、支払処理時に資料番号が自動で採番できること。
2	3	4	6	支払処理したデータを検索し、支払取消ができること。
2	3	5		配架処理
2	3	5	1	目録処理が完了したデータを抽出して配架処理ができること。配架処理が完了したデータはOPAC、ILL、閲覧、所蔵管理にて利用できる状態になること。
2	3	5	2	整理済資料リストが作成できること。
2	3	5	3	優先貸出を希望する請求者がいる場合には、自動的に予約データが作成され、予約票が出力されること。また、配架処理時に請求者へ自動的にメールを送信する設定が可能なこと。
2	3	6		帳票 以下の帳票が作成できること。 ・ 選定リスト ・ 発注リスト ・ 図書受入チェックリスト ・ 資料整理済通知 ・ 処理段階リスト ・ 継続本納品状況リスト ・ 未着リスト ・ 受入区分別受入統計 ・ 資料区分別受入統計 ・ 納入者別支払統計 ・ 分類別受入冊数統計
2	4			雑誌受入業務
2	4	1		包括的要件
2	4	1	1	複数の業務利用者が同時に受入業務を行っても差支えないシステムであること。
2	4	1	2	NIIと本機構書誌データベースの検索をシームレスに行うことができ、各処理段階における書誌データとして引用できること。またオリジナル作成もできること。
2	4	1	3	契約、受入、製本発注の各機能を有し同一画面上で機能の切り替えができること。また、任意の契約データを呼び出した際に、契約番号を引き継いだまま機能の切り替えができること。
2	4	1	4	契約、受入、製本発注の各画面上で契約データ検索時に、全センターセンター表示・自センターセンターのみ表示が選択できること。
2	4	1	5	契約、受入、製本発注の各画面上で契約データ検索時に、契約情報の項目を条件に指定し検索できること。
2	4	2		発注・契約
2	4	2	1	契約データの新規登録・修正・削除が行えること。また、契約データは年度単位に管理できること。
2	4	2	2	当該年度の雑誌契約データを一括複写して翌年度の雑誌契約データを作成できること。
2	4	2	3	契約データを年度、納入者を指定して一括してテキスト形式のファイル出力ができること。出力したファイルを加工して契約データの一括更新ができること。
2	4	2	4	契約データを一括して更新できる機能を有すること。
2	4	2	5	契約データを一括して削除できる機能を有すること。契約データ削除後に受入巻号だけがデータとして残る場合は、受入巻号を一括で削除できること。
2	4	2	6	契約データの誌名変更処理ができること。誌名変更前・誌名変更後IDを契約データに格納でき、誌名変更後は、誌名変更前契約データは誌名変更前の書誌にリンクし、誌名変更後契約データは誌名変更後の書誌にリンクすること。
2	4	2	7	新規の契約データの場合、雑誌書誌データ作成画面に遷移させ、書誌データの新規作成の後、書誌とのリンクを自動生成して発注・契約データの入力ができること。
2	4	2	8	電子ジャーナルの契約管理をするため、契約データには、契約額、税額の他に、課税対象額、課税対象税込額、リバースチャージ対象比率、リバースチャージ対象額、リバースチャージ納税額、リバースチャージ納税日の各金額項
2	4	2	9	金額情報が変更となった複数の契約データに対して一括で契約額の再計算ができること。
2	4	3		受入

				(要件)
2	4	3	1	雑誌の新着巻号データについて、単一の画面上で次受入巻号の予測値を入力域に表示すること。
2	4	3	2	受入データごとの納入価格は、当該年度の契約額を契約冊数で割った値とし、受入画面で自動的に予測値が表示されること。ただし、年度の最終受入巻号は端数を加算した値を表示すること。
2	4	3	3	作成された受入雑誌データは、目録画面からもデータを閲覧・更新することが可能なこと。受入画面から作成されたデータは、どちらの画面で更新を行っても、更新内容が連動すること。
2	4	3	4	受入データを選択し、製本発注・受入が可能なこと。また、製本の状態によりOPACへの表示・非表示を、システムが自動的に判断し実行すること。
2	4	3	5	支払対象外の巻号の受付ができ、有料・無料の増刊号を登録できること。
2	4	3	6	年鑑類の資料を対象に単冊登録処理ができること。また、単冊登録処理時には原簿番号も入力できること。単冊登録されたデータは即時にOPAC、ILL、閲覧、所蔵管理にて利用できること。
2	4	3	7	受入時に貸出用の資料番号が自動採番できること。自動採番する・しないはタイトル単位（契約単位）に指定ができ、番号の初期値は所属ごとに管理できること。
2	4	3	8	受入データに特集記事の入力ができ、OPACでの検索対象となること。
2	4	3	9	受入データにURLが登録できること。このURLはOPAC画面上でリンクできること。
2	4	3	10	受入されたデータをもとに本機構雑誌の包括所蔵データが自動更新され、その結果がその画面に表示されること。さらに画面を切り替え、所蔵の手動更新およびNIIへのアップロードもできること。
2	4	3	11	受入巻号データの一括削除が行えること。本機能は所定の抽出条件やファイル読み込みにより削除集合を作成・一覧表示し、その中からさらに削除対象を選択・除外できること。
2	4	3	12	チェックイン時にパラメータの設定により、資料番号の必須チェックが行えること。
2	4	3	13	受入画面上で支払状況が確認できること。
2	4	3	14	任意の条件で契約データを抽出し、一括で受入金額を再配分できること。
2	4	4		製本発注・受入
2	4	4	1	製本発注データ作成時に、既受入巻号データを呼び出して作成できること。
2	4	4	2	遡及分の製本発注データが作成できること。
2	4	4	3	年度、製本業者、版型、和洋区分ごとに製本単価を設定できること。
2	4	4	4	製本受入後、図書と同様に配架処理を行うことができること。
2	4	4	5	製本データについて、任意の検索集合体を作成し、そこから任意の開始番号を指定して、資料番号を一括付与する機能を有すること。
2	4	4	6	ファイル読み込みによる製本受入データ一括登録機能を有すること。
2	4	5		支払（前金・後金）
2	4	5	1	前金雑誌の支払処理ができること。
2	4	5	2	前金雑誌の支払は分割払いができること。
2	4	5	3	後金雑誌及び製本費の支払準備処理ができること。支払準備処理時に支払準備リストが作成できること。
2	4	5	4	図書・後金雑誌・製本をまとめて支払単位を作成できること。支払単位作成後、支払単位ごとに納入者、予算等の条件を指定して支払できること。
2	4	5	5	後金雑誌及び製本費の支払処理ができること。支払処理時に明細書が作成できること。
2	4	5	6	支払処理時に支払番号を付与できること。支払番号をもとに明細書が出力できること。
2	4	5	7	支払処理したデータを検索し、支払取消ができること。
2	4	6		精算
2	4	6	1	当年度の前金払の雑誌について、全点分を一括精算処理できること。
2	4	6	2	精算対象となった巻号は、精算処理されたことが識別できる形で、後金払の欠号情報として管理できること。
2	4	7		その他
2	4	7	1	受入巻号の一括除籍処理ができること。
2	4	7	2	受入巻号の移行処理(契約の付け替え)ができること。
2	4	8		帳票 以下の帳票が作成できること。 ・ 契約リスト ・ 雑誌受入チェックリスト ・ 雑誌チェックインラベル

				(要件)
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌バーコードラベル ・ オールラックリスト ・ 到着状況リスト ・ 雑誌未着リスト ・ 製本可能雑誌一覧 ・ 製本発注リスト ・ 製本受入チェックリスト ・ 精算内訳書 ・ 受入区分別・雑誌種類統計
2	5			目録業務
2	5	1		包括的要件
2	5	1	1	NACSIS-CATの書誌・所蔵データに準拠した書誌・所蔵データを持つこと。
2	5	1	2	NACSIS-CATに対応し、機構内データベースも多言語で登録・表示できること。
2	5	1	3	NACSIS-CATと本機構目録システムの切り替えは簡易な操作で行えること。
2	5	1	4	本機構目録データベースにデータの登録・修正・削除ができ、即時更新が行えること。
2	5	1	5	書誌登録時、検索用キーワードを自動生成する機能を有すること。
2	5	1	6	NACSIS-CAT で採用している漢字統合インデックス相当以上の機能を有し、NACSIS-CATからの書誌ダウンロード時において、検索用キーワードも自動的にダウンロードする機能を有すること。
2	5	1	7	任意のキーワードを追加、削除する機能を有すること。
2	5	1	9	機構内目録検索時に、図書書誌・雑誌書誌を同一画面上でひとつの検索窓から検索する機能を有すること。同一画面で検索する場合、図書、雑誌、電子ブック、電子ジャーナルなどの書誌種別を指定して検索できること。
2	5	1	9	機構内目録検索時に、検索結果一覧画面上で所蔵情報が確認できること。
2	5	1	10	検索結果一覧画面は、書誌ID・書名・著者名・出版年の昇順・降順でソートできること。
2	5	1	11	ファセットブラウジング機能(検索結果一覧を所在センター・データ種別・和洋区分・出版年・著者・言語・件名・分類・親書誌名ごとに、絞込して表示する機能)を有すること。
2	5	1	12	検索結果一覧を、図書・雑誌別にファイル出力できること。
2	5	1	13	目録画面上に印刷ボタンがあり、書誌・所蔵データをまとめて印刷できること。
2	5	2		書誌作成
2	5	2	1	NACSIS-CATから書誌データをダウンロードする際に、NCIDにより重複チェックを行う機能を有すること。NCIDでヒットしない場合は、ISBN、FTITLEにより重複チェックを行う機能を有すること。
2	5	2	2	書誌項目中にCATP形式のLOCAL情報(自館オリジナルのデータが入力でき、NACSIS-CATダウンロード時にも上書きされない項目)を持てること。LOCAL情報中のデータをOPACに表示するかどうかパラメータで設定できること。
2	5	2	3	本機構独自のタグを図書・雑誌別に作成し、書誌項目中に独自のタグとして管理できること。設定したタグを検索対象とする機能も有すること。
2	5	2	4	NACSIS-CATと同様に親書誌について、複数の子書誌との階層関係を書誌リンクにより表示できる機能を有すること。
2	5	2	5	親書誌と子書誌、書誌と所蔵データ間の付け替え元と付替え先を画面に表示し、一括で変更できる機能を有すること。
2	5	2	6	NACSIS-CATと本機構目録データベースに同じ書誌がある場合は、一画面上にNACSIS-CATの書誌と本機構の書誌を並べて表示し、両者を比較して本機構の書誌を編集できる機能を有すること。
2	5	2	7	書誌データベース中にURLフィールドをもち、OPACにてハイパーリンクができる機能を有すること。
2	5	2	8	NACSIS-CAT雑誌書誌データの変遷関係がMap形式にて表示できること。
2	5	2	9	巻単位で作成された書誌、所蔵データを一つの書誌に統合する機能を有すること。統合時、不要な書誌は同時に削除できること。
2	5	3		所蔵管理
2	5	3	1	本機構の図書書誌情報に加え、所蔵情報(蔵書点検情報を含む)、発注情報を持つこと。各情報は、書誌情報画面からワンクリックでアクセスできること。
2	5	3	2	所蔵データが複数ある場合は、全センター表示・自センターのみ表示が選択できること。

				(要件)
2	5	3	3	図書受入処理を経なくても目録登録処理を行う機能を有すること。
2	5	3	4	図書所蔵データを1件ずつアップロードする機能を有すること。
2	5	3	5	NIIへの所蔵報告を目的とした、所蔵データの一括アップロードがオンラインでできること。また、実行の周期・NII報告内容・抽出条件を設定し、所蔵データを一括で自動的にアップロードできること。
2	5	3	6	雑誌受入情報を目録の画面から登録・修正できること。また、雑誌受入情報・製本情報の登録・修正画面から特集記事を入力する機能を有すること。
2	5	3	7	雑誌所蔵データの所蔵年次・所蔵巻号を編集し、対応するNACSIS-CAT雑誌所蔵データを更新する機能を有すること。
2	5	3	8	一括所蔵形式には、全ての文字が記入できること。またNIIの記述書式と相違がある場合はNIIへの所蔵登録が否のデータのみ可能とするような制御ができること。
2	5	4		その他
2	5	4	1	電子ブック集を一括登録してOPACで検索できる機能を有すること。ファイルフォーマットはMARC21形式およびCATP形式に対応可能なこと。
2	5	4	2	電子ジャーナル集を一括登録してOPACで検索できる機能を有すること。
2	5	4	3	CATP形式のファイルを目録情報として一括取り込みする機能を有すること。また、実行周期を指定し、自動的に取り込みする機能も有すること。
2	5	5		帳票 以下の帳票が作成できること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バーコードラベル ・ 請求記号ラベル ・ 整理済資料リスト ・ 寄贈リスト ・ 原簿 ・ 除籍原簿 ・ 図書目録プルーフリスト ・ 雑誌目録プルーフリスト ・ 雑誌所蔵リスト
2	6			一覧業務
2	6	1		包括的要件
2	6	1	1	オフラインで貸出・返却を行えるローカル閲覧機能を有すること。
2	6	1	2	資料番号が記載されているファイルを読み込み、一括で貸出・返却できること。
2	6	1	3	図書館カレンダー機能を用意し、返却期限日、延長期限日が自動算出できること。
2	6	1	4	図書館カレンダーを閲覧用、OPAC用に一画面で作成できること。
2	6	1	5	利用者区別にカレンダー上の特別貸出期間を設定できること。
2	6	1	6	図書館カレンダーを図書館ホームページ用にAPI(Application Programming Interface)にて出力できること。
2	6	1	7	機能制御用のバーコードをもち、そのバーコードを読み取ることにより機能制御ができること。（貸出・返却切り替え、貸出種別切り替え、レシート印刷指示等）
2	6	1	8	貸出・返却・予約・利用者情報表示・資料問い合わせ機能の切り替え制御はファンクションキーでも行えること。
2	6	1	9	利用者情報は、利用者IDをバーコードリーダーから読み取る方法のほか、利用者IDを直接入力しても呼び出すことができること。また、学籍番号、利用者氏名、氏名ヨミ、電話番号、メールアドレスから検索して呼び出すこともできること。
2	6	1	10	利用者IDを読み込んだ状態のまま、「貸出」「予約」「利用者情報」「利用者登録」画面へ利用者IDを引き継いで遷移できること。また、パラメータにより引き継がない設定もできること。
2	6	1	11	ILL依頼資料で到着済みの資料がある場合は、画面上にメッセージが表示されること。メッセージをクリックして資料名・料金等の情報を表示し、引渡し処理ができること。
2	6	2		貸出条件設定
2	6	2	1	資料種別と利用者区分グループ単位で貸出条件（貸出冊数・日数・更新回数・罰則等）が設定できること。

				(要件)
2	6	2	2	貸出条件の設定は、利用者区分グループと貸出種別ごとに1件ずつ設定する方法と、一覧形式から一括で設定する方法の2種類を有すること。
2	6	2	3	ファイル読み込みによる貸出条件の一括更新機能を有すること。
2	6	2	4	貸出期間の設定は、日数指定の他に、月指定や年指定ができること。
2	6	2	5	貸出冊数は、貸出種別(一般貸出、長期貸出等)ごとに設定できるほか、一般貸出と長期貸出を合わせて〇冊、というような設定もできること。
2	6	3		貸出
2	6	3	1	利用者ID読み取りの際、現在貸出中の資料の一覧が表示されること。この機能は表示させない設定もできること。表示させない設定の場合は、直前に読み取った資料の情報のみ表示されること。
2	6	3	2	貸出条件に反する貸出要求時にはそのことが明確に判るように、メッセージが表示されること。またその際、その場で強制貸出できること。
2	6	3	3	貸出画面からワンクリックで貸出条件の内容が参照できること。
2	6	3	4	同一利用者・同一資料での貸出要求時には、継続貸出として処理できること。
2	6	3	5	未登録資料の貸出ができること。
2	6	3	6	不在資料が貸出・返却された場合は、メッセージが表示され、貸出・返却と同時に在籍区分が在籍の状態へ戻ること。この機能は使用しない設定もできること。
2	6	3	7	長期貸出と一般貸出の返却予定日を比較し、一般貸出の返却予定日が後になる場合は、一般貸出の返却予定日が自動的に適用されるよう設定できること。
2	6	3	8	同一書誌で同一VOLの資料(いわゆる複本)を同一利用者に複数冊貸し出すかどうかパラメータで設定できること。
2	6	3	9	資料返却後、同じ利用者と同じ資料を指定した日数で貸し出さない設定ができること。
2	6	3	10	貸出時に資料に対するコメントが入力できること。コメントは定型文を事前に設定しておくことができること。
2	6	3	11	付属資料が登録されている資料については、付属資料も同時に貸出する機能を有すること。また付属資料は貸出ししない処理も可能なこと。
2	6	3	12	貸出画面上で、利用者に対するコメントの入力・編集が行えること。
2	6	3	13	貸出停止の罰則が付与されている利用者の場合は、貸出画面からリンクで遷移し、停止期間の修正・解除が行えること。
2	6	3	14	本機構が用意する貸出専用パソコンを使用し、利用者自身で貸出が行える機能を有すること。このとき、業務システムからの貸出(業務利用者による貸出)と不整合が起きないようにエラーチェックを行うこと。
2	6	4		返却
2	6	4	1	バーコードの読み取りにより返却処理が行えること。また、資料番号の直接入力や、資料番号の検索により返却処理を行うこともできること。
2	6	4	2	予約資料の場合はそのことが明確に判るように、予約情報が表示されること。また、予約者に対するメール通知や予約票の印刷が自動または手動で行われること。
2	6	4	3	返却期限が過ぎた資料が返却された時は、延滞資料であることが画面上に表示されること。
2	6	4	4	閉館時にポストへ返却された資料の返却処理を行う場合に、返却期限日を指定して返却処理ができること。
2	6	4	5	未貸出資料の返却処理を行った場合、未貸出という表示とともに、当該資料の所在・分類・状態が表示されること。
2	6	4	6	付属資料を同時に貸出した資料が返却された際に、付属資料も貸出されている旨をポップアップメッセージで表示する機能を有すること。
2	6	5		予約
2	6	5	1	OPACから利用者自身で、貸出中資料・予約中資料に対して書誌単位の予約が行えること。この時、本人による操作であることを認証できる機能を有すること。
2	6	5	2	前項に加えて、在架資料に対しても利用者自身で予約をかけられる設定ができること。
2	6	5	3	業務画面から、在架資料への予約を通覧できるリストを出力する機能を有すること。
2	6	5	4	業務画面からの予約は、資料番号単位、複本全体のどちらにでも予約をかけることができること。
2	6	5	5	予約資料が利用可能な状態になった時に、資料の状態を「取置中」に更新する機能を有すること。この時、予約者に対するメール通知や予約票の印刷が自動または手動で行われること。
2	6	5	6	予約情報を通覧できる機能があり、予約情報を個別もしくは一括で解除することができること。

				(要件)
2	6	5	7	予約が複数あるデータに対して、利用者の予約順を変更できること。
2	6	5	8	利用者区分グループ単位で予約条件(取置日数、予約限度件数、禁帯出資料の予約可否)が設定できること。予約条件は業務システムからの予約とWeb経由での予約で異なる条件が設定できること。
2	6	5	9	罰則が適用されている利用者については、予約申込みを禁止する設定ができること。
2	6	5	10	予約の履歴が確認できること。予約の履歴として、貸出まで完了した予約や貸出前に解除された予約が表示されること。
2	6	6		取寄予約
2	6	6	1	資料の所在と受取館が異なる場合に、OPACから利用者自身で取寄予約ができること。また複数館における資料の取寄予約を管理する機能を有すること。
2	6	6	2	取寄依頼のかかった資料に対しては状態を「準備中」とし、依頼受付館にて、確保依頼票を出力する機能を有すること。
2	6	6	3	取寄依頼のあった資料については、依頼受付館にて、資料番号と予約番号を入力することで確保処理を行い、資料の状態を「発送待ち」とし、通常貸出処理をされないようにする機能を有すること。
2	6	6	4	依頼受付館にて、取寄依頼のあった資料番号と予約番号を入力することで発送処理を行い、資料の状態を「発送中」とする機能を有すること。また、「準備中」状態の資料を「発送待ち」の処理を経ずに「発送中」にできること。
2	6	6	5	依頼館にて、取寄依頼のあった資料番号と予約番号を入力することで受取処理を行い、資料の状態を、予約と同様の「取置中」とする機能を有すること。
2	6	6	6	2.6.6.6 他館からの取寄処理を行い貸出した資料が返却された際、資料の状態を「返送待ち」とする機能を有すること。なお、「返送待ち」状態であっても、強制貸出を可能とすること。
2	6	6	7	依頼館にて、返送先を指定し、資料番号を入力することで返送処理を行い、資料の状態を「返送中」とする機能を有すること。
2	6	6	8	返送された資料について、資料番号を入力することで受取処理を行い、取寄予約の管理を終了させ、状態を通常配架に戻す機能を有すること。
2	6	6	9	発送元、発送先別に、資料の状態を照会する機能を有すること。
2	6	6	10	予約番号を指定して取寄せを解除する機能を有すること。
2	6	6	11	取寄予約の管理において、以下の帳票を出力する機能を有すること。
2	6	7		利用者情報
2	6	7	1	利用者の貸出状況、予約状況、個人情報、コメント、罰則情報、ILL状況が確認できること。個人情報については表示させない設定もできること。
2	6	7	2	貸出中資料の貸出日・返却期限日を一括で編集できること。
2	6	8		督促
2	6	8	1	督促対象データを抽出し、画面に一覧表示できること。
2	6	8	2	画面に一覧表示されたデータから督促対象を選択し、各種督促リスト(掲示用、事務用、はがき、封書、宛名ラベル、メール)が出力できること。はがき、封書、宛名ラベルに関しては、出力時に送付先を本人住所・保護者住所のどちらにするか選択できること。
2	6	8	3	督促メールを自動で送信できること。自動送信の実行周期、抽出条件は複数パターン設定でき、利用者区分ごとに定型文言を指定できること。
2	6	8	4	返却期限日事前通知メールを送信できること。返却期限日、自動送信の実行周期、抽出条件は複数パターン設定でき、利用者区分ごとに定型文言を指定できること。
2	6	8	5	返却期限日事前通知メールを受け取るか否かは、Webブラウザ上で利用者自身が設定できること。
2	6	9		指定図書管理
2	6	9	1	任意の資料をカテゴリズし、指定図書として管理できること。指定図書はOPACにて公開できること。
2	6	9	2	指定図書は、推薦図書等異なる名称で複数パターン設定できること。
2	6	9	3	指定図書設定時に、指定図書用の所在・貸出種別・禁帯出区分も併せて設定できること。設定内容は指定図書解除時に自動で元の状態へ戻ること。
2	6	9	4	指定図書の一括解除が行えること。
2	6	9	5	指定図書の管理において、以下の帳票を出力する機能を有すること。
2	6	10		その他

				(要件)
2	6	10	1	利用者や資料の指定した期間内の貸出・返却履歴が確認できること。
2	6	10	2	館内利用資料の統計用データが作成できること。
2	6	10	3	臨時休館があった場合など、貸出中の資料の返却期限日を一括で変更することができること。
2	6	10	4	任意の利用者を抽出し本文を自由に編集してメールを一括で送信できること。また、本文を定型文言として事前に登録しておき、選択することもできること。
2	6	11		帳票 以下の帳票が作成できること。 貸出リスト 予約票 利用者カード 利用回数リスト 利用者区分別所属別貸出統計 ベストリーダーリスト 貸出動態統計 利用者区分別取寄依頼統計 利用者区分別月別貸出統計 所在別月別貸出統計 予約リスト OPAC検索統計 利用者サービス統計
2	7			2.7 所蔵管理
2	7	1		資料番号を指定し、対象資料の所在の変更を行う機能を有すること。所在変更は1件ごとの処理に加え、資料番号のファイル読込や条件指定による複数資料の一括変更処理も可能なこと。
2	7	2		所在変更処理と連動して、所在所属、禁帯出区分、在籍区分、貸出種別、OPAC表示レベルを指定した値に一括変更する機能を有すること。
2	7	3		所在変更実行後のリストを出力する機能を有すること。
2	7	4		資料番号の付け替え機能を有すること。
2	7	5		除籍準備処理ができ、除籍準備リストが出力されること。
2	7	6		除籍処理ができること。除籍処理時に除籍区分や除籍理由等が設定でき、除籍リストが出力されること。
2	7	7		除籍資料の復籍処理ができ、復籍リストが出力されること。
2	7	8		帳票 以下の帳票が作成できること。 ・除籍準備リスト ・除籍リスト ・資料区分別冊数統計 ・所蔵統計リスト ・年間受入統計 ・所在別冊数統計 ・所蔵詳細統計 ・シェルフリスト
2	8			蔵書点検
2	8	1		ハンディターミナル等の機器によって収集した資料番号のファイルを元に蔵書点検を行う機能を有すること。また個別に1件ずつ資料番号を指定して蔵書点検を行うこともできること。
2	8	2		点検時点における貸出中資料や配送中資料等については点検上存在するものとみなし、図書館を閉館することなく蔵書点検を行えること。
2	8	3		ファイル読込時に点検時所在および点検日を設定する機能を有すること。
2	8	4		ファイル中の資料番号をキーとして当該資料のデータ照合を行い、照合の結果データ上不一致となった点検資料について、以下のリストを出力する機能を有すること。
2	8	4	1	・所在違いリスト：照合先データと点検時所在が異なる資料のリスト

				(要件)
2	8	4	2	・発見図書リスト：データ上不在扱いとなっていた資料のリスト
2	8	4	3	・未返却リスト：データ上貸出中となっている資料のリスト
2	8	4	4	・エラーリスト：データ上除籍や未配架となっている資料のリスト
2	8	5		蔵書点検の結果、不在となった資料の在籍状態を更新し、不在資料のリストを出力する機能を有すること。更新処理において初回不在日、不在回数を自動的に更新できること。
2	9			文献複写・現物貸借 (ILL)
2	9	1		包括的要件
2	9	1	1	NACSIS-ILLを利用した依頼・受付業務を行うことができ、機構内データベースも多言語で登録・表示できること。
2	9	1	2	NACSIS-ILL経由の依頼・受付レコードに対する処理は、透過的にNACSIS-ILLに反映されること。
2	9	1	3	2.9.1.3
2	9	2		文献複写依頼・現物貸借依頼の申込
2	9	2	1	利用者がWebブラウザを利用して文献複写依頼・現物貸借依頼ができること。この時、本人による操作であることを認証できる機能を有していること。
2	9	2	2	利用者がWebブラウザを利用して文献複写依頼・現物貸借依頼をする際に、OPACの検索結果からローカル・NIIの書誌情報を申込画面に引用することができること。
2	9	2	3	利用者がWebブラウザを利用して文献複写依頼・現物貸借依頼をする際に、予算のデフォルト値をパラメータにより設定できること。
2	9	2	4	利用者がWebブラウザを利用して文献申込依頼・現物貸借依頼をする際の、申込画面に表示する項目を任意に設定する機能を有していること。
2	9	3		依頼・受付
2	9	3	1	NACSIS-ILL依頼レコードの新規作成・修正・処理段階変更ができること。
2	9	3	2	NACSIS-ILL受付レコードの更新・処理段階変更ができること。
2	9	3	3	NACSIS-ILLレコードの状態遷移を反映しデータベースを更新できること。NACSIS-ILLで他館からの依頼レコードが到着していた場合は対応する受付レコードを生成すること。画面表示に際してはこれらを視覚的に識別できること。
2	9	3	4	依頼時のNII所蔵館検索一覧画面では、表示順・地域・設置者・機関・相殺/非相殺・複写料金・貸借料金・複写件数・貸借件数・複写依頼中件数・貸借依頼中件数の項目ごとに昇順・降順の並び替えができること。また自館の所蔵データを自動検索し、所蔵データがあった場合は「自館所蔵〇件」と表示できること。
2	9	3	5	ローカル参加組織のデータに所蔵館OPACのURLが登録されている場合、依頼時のNII所蔵館検索一覧画面から依頼する書誌の当該館OPAC検索結果へ遷移できること。
2	9	3	6	よく利用する依頼館を上部に表示するよう、ローカル参加組織のデータに表示順を設定できること。また、表示順は、分館単位で設定できること。
2	9	3	7	依頼画面で申込者の利用者情報の詳細が参照できること。
2	9	3	8	申込データに申込者からのコメントが入力されている場合は、そのコメントを強調して表示する機能を有すること。
2	9	3	9	利用者が申し込み時に入力した情報は依頼情報とは別に申込情報として参照できること。
2	9	3	10	依頼前のレコードにおいては、依頼業務画面上にリンクリゾルバへのリンク画面を有し、申込データのISSN、ISBN、書名等を元に、リンクリゾルバ上で検索する機能を有すること。
2	9	3	11	貸借依頼で他館から借りている資料で機構内返却期限が過ぎたものがある場合、業務選択画面に「返却確認〇件」と明示されること。
2	9	3	12	貸借依頼で他館から借りている資料で返却期限が過ぎたものがある場合、業務選択画面に「要返却〇件」と明示されること。
2	9	3	13	貸借受付で他館へ貸出中の資料で返却期限が過ぎたものがある場合、業務選択画面に「要督促〇件」と明示されること。
2	9	3	14	料金相殺の対応として、各種詳細画面、受付・依頼票に相殺表示ができること。
2	9	3	15	依頼・受付番号は依頼ごと、受付ごと、複写ごと、貸借ごと、さらにそれぞれの掛け合わせごとの自動付与ができること。またセンター単位でも別々に付与設定ができること。本機能により付与された結果の値に対して修正ができること。

				(要件)
2	9	3	16	文献複写受付時にモノクロ・カラーコピー等の料金項目を複数設定できること。また、複数料金項目を設定した場合、帳票にも複数印字されること。
2	9	3	17	一括発送、一括受付、一括保存（Web依頼データ）の機能を有すること。なお、一括発送時には依頼館へのコメントを一括及び個別に設定できること。
2	9	4		帳票
2	9	4	1	帳票出力時に、窓口コード・NII/ローカル・依頼/受付・貸借/複写・相殺機関/非相殺機関の別を指定して出力できること。
2	9	4	2	相手機関の種類（大学・大学院・短大・高専・文科省機関・他庁機関・個人など）やその設置母体の種類（国立・公立・私立・特殊法人など）により種別された依頼データ・受付データの統計表を作成できること（機関種別統計表・設置者種別統計表）。
2	9	4	3	受付作業票、送付票の作成ができること。送付用の封筒に合わせて送付票の住所を表示するよう設定できること。
2	9	4	4	依頼の校費分については部局別に申込者ごとの集計とリストの印刷ができること。
2	9	4	5	依頼・受付のプルーフリスト（相手館別）が作成できること。
2	9	4	6	以下の帳票が作成できること。 <ul style="list-style-type: none"> ・依頼/受付(一覧表) ・依頼/受付(作業票) ・到着通知書 ・相手館別プルーフリスト ・相手館別依頼集計表 ・相手館別受付集計表 ・相互利用統計表(複写)帳票 ・相互利用統計表(貸借)帳票 ・ILL支払/領収明細リスト ・購入参考リスト
2	9	5		その他
2	9	5	1	NACSIS-ILLに登録している自館の参加組織データのメンテナンスができること。
2	9	5	2	NACSIS-ILLの参加組織データを検索・参照できること。
2	9	5	3	NACSIS-ILLの参加組織データをダウンロードし、ローカル参加組織データベースへ一括取り込みが可能であること。なお本機能はGUIにより実行が可能であること。
2	9	5	4	ILL料金の徴収・精算機能を有すること。精算処理時に引渡日を設定することができ、料金支払依頼・領収帳票が出力できること。また、引渡日を指定して過去の精算履歴が表示できること。
2	10			蔵書検索（OPAC）
2	10	1		包括的要件
2	10	1	1	蔵書検索のサーバ機能として、図書・雑誌・AV資料・雑誌特集記事・電子ジャーナル等の検索ができること。図書・雑誌は和洋別に検索できること。
2	10	1	2	NIIが提供するCiNii Booksを利用して、全国総合目録の検索ができること。
2	10	1	3	OPACは日本語表記と英語表記の切り替えができること。またヘルプについても同様の切り替えができること。
2	10	1	4	スマートフォン、タブレット等様々なデバイスにおいても最適な表示が可能なよう、OPACはレスポンシブWebデザインに対応していること。
2	10	1	5	図書館からのお知らせ、図書館カレンダーを4つの県立病院（循環器・呼吸器病センター、がんセンター、小児医療センター、精神医療センター）ごとにOPACのトップ画面に表示する機能を有すること。
2	10	2		検索様式
2	10	2	1	データベース中の下記項目に対する任意の文字列（以下、検索キーワード）を入力して検索できること。 ① タイトル類：書誌中の「本標題」・「並列標題」・「その他の標題」・「標題関連情報」・「統一書名」・「件名」・「書誌構造リンク」に含まれる標題及びそのヨミ。 ② 著者名類：書誌中の「書誌構造リンク」に含まれる著編者名及びそのヨミ、著者名典拠。 ③ コード類：書誌中の「ISBN」・「ISSN」・「NC書誌ID」・「本機構書誌ID」。
2	10	2	2	検索結果が0件の場合は、予め指定したWebサイトに対して検索語を引き継いで検索できること。

				(要件)
2	10	2	3	「*」(アスタリスク)を利用した前方一致検索ができる機能を有すること。
2	10	2	4	「#」(シャープ)を利用した完全一致検索ができる機能を有すること。
2	10	2	5	「”」(ダブルクォーテーション)を利用したフレーズ検索ができる機能を有すること。
2	10	2	6	検索キーワードに対して近似値による別のキーワード候補を表示し、クリックすることで再検索を行う機能(もしかして検索機能)を有すること。
2	10	2	7	分類を指定して検索する分類検索機能を有すること。分類表は、NDC、DDC、NLMC、その他の分類に対応できること。
2	10	2	8	検索画面に他サイト(CiNii Books、CiNii Research、CiNii Dissertations、PubMed、NDLサーチ、IRDB等のAPIが用意されているデータベース)の検索画面をタブとして有すること。タブを切り替えることにより、検索語を引き継いで検索できること。
2	10	3		蔵書検索インターフェース
2	10	3	1	蔵書検索インターフェースは、単一の検索語入力域で構成される簡易検索画面と、複数の検索語入力域と論理演算子(AND、OR、NOT)で構成される詳細検索画面の2種類を有すること。
2	10	3	2	資料区分(図書・雑誌・AV資料・雑誌特集記事等)を指定して検索できること。
2	10	3	3	出版年、出版国、言語、分野、媒体種別、配架場所(所在)を指定して検索できること。検索語未入力状態で上記の項目を指定しても検索できること。
2	10	3	4	書名・著者名・出版年の昇順・降順および関連度順を指定して検索できること。
2	10	3	5	一画面に表示する件数が設定できること。
2	10	4		検索結果一覧画面
2	10	4	1	検索結果を一覧で表示する画面を有すること。画面には書誌情報・所蔵情報を簡略的に表示すること。所蔵情報は表示しない設定もでき、表示する上限件数を設定できること。
2	10	4	2	請求記号をマウスオーバーすると本の背ラベルのイメージが表示される機能を有すること。
2	10	4	3	配架場所(所在)に本機能が用意した地図のリンクを表示できること。
2	10	4	4	検索結果一覧及び詳細画面において、「新着資料」「人気図書」「書評あり」「借りたことあり」等、各資料の状態を示すスタンプを表示すること。
2	10	4	5	ファセットブラウジング機能(検索結果一覧をデータ種別・出版年・著者・言語・件名・親書誌名ごとに、絞込して表示する機能)を有すること。
2	10	4	6	検索結果一覧から任意のデータを選択して、E-Mailで任意のアドレスへ送信および、ファイルに出力ができること。ファイル出力時に文字コードをS-JIS、EUC、UTF-8の中から選択できること。
2	10	5		検索結果詳細画面
2	10	5	1	検索結果一覧画面の簡略書誌情報をクリックすることで当該資料の詳細画面に遷移すること。
2	10	5	2	親書誌、著者名、件名、標準分類等からの関連展開機能を有すること。件名細目がある場合は、細目も含めた形で関連展開ができること。
2	10	5	3	図書・雑誌の書誌情報中にURL情報を持ち、OPAC上で該当情報にリンクできること。
2	10	5	4	雑誌の所蔵巻号が多い場合、年次・巻号を指定して表示できること。
2	10	5	5	図書館利用者が資料に対する書評を投稿する機能を有すること。投稿された書評は業務担当者側で承認処理をしたもののみ公開する機能を有すること。
2	10	5	6	当該資料の前後に配置されている可能性のある資料を、所在と請求記号を元に推測して情報を表示する、仮想書架機能を有すること。
2	10	6		利用者サービス機能
2	10	6	1	貸出・予約状況照会、文献複写・貸借申込み、文献複写・貸借申込み状況照会、パスワード新規登録・変更、メールアドレス登録・変更・削除が利用者自身で行えること。
2	10	6	2	貸出・予約状況照会画面から、個別または一括で貸出延長ができること。
2	10	6	3	文献複写・現物貸借申込み時、機構内重複チェックを行うことができること。なお画面レイアウト及び必須項目については、現行システムの内容継承を前提に、本機構と協議の上、決定する。
2	10	6	4	2.10.6.4 2.10.6.1の各サービスの使用可否を利用者区分ごとに設定できること。また、一時的に使用不可とすることもできること。その場合、一時停止開始日時と一時停止終了日付が指定でき、一時停止時のメッセージや転送先のURLが設定できること。

				(要件)
2	10	6	5	OPACから利用者自身が貸出中資料の予約申込を行う機能を有すること。また、貸出・予約状況照会画面から予約の取消を行う機能を有すること。
2	10	6	6	新着図書が通覧できること。また、新着図書として表示される期間を月単位、日付単位で設定できること。
2	10	6	7	新着雑誌の照会ができること。また、新着雑誌として表示される期間を月単位、日付単位で設定できること。
2	10	6	8	AV資料の照会ができること。
2	10	6	9	雑誌タイトルリストの照会ができること。電子ジャーナル資料の場合、自動的に電子ジャーナルとして区別して表示できること。
2	10	6	10	指定図書が通覧できること。
2	10	6	11	ソーシャルタグの一覧表示機能を有し、タグをクリックすることで当該タグが設定された資料の一覧を閲覧できる機能を有すること。ソーシャルタグは業務画面から作成することができ、当該タグを資料に対し個別・一括で設定する機能を有すること。
2	11			運用管理／業務支援／その他
2	11	1		運用管理
2	11	1	1	図書館業務の運用履歴が管理できること。また個人情報に関する、参照、リスト出力、登録、更新、削除の実行履歴が管理されること。
2	11	1	2	実行履歴は、所属、処理年月日、業務利用者ID、業務種別、対象データキー等で検索できること。
2	11	1	3	検索した実行履歴をファイル出力し、Excel等の表計算ソフトにて加工できること。
2	11	2		業務支援
2	11	2	1	図書館業務で構築されたデータベースから、多種多様な抽出条件と出力項目を指定してデータをファイル出力できること。
2	11	2	2	設定した抽出条件と出力項目は保存することができ、次回利用時に簡易な操作で再設定できること。
2	11	2	3	ファイル出力時に、CSV／TSV等のファイル形式が選択でき、EXCEL等の表計算ソフトで加工できること。出力項目は、制御項目を除く項目を出力可能とし、各種コードに対応する名称データも引用できること。
2	11	2	4	本機能はエンドユーザが操作できるGUIの画面から操作できること。
2	11	3		その他
2	11	3	1	SRU及びOpenSearchによる検索APIの実装・提供が可能であること。OpenSearchはCiNii Booksで公開されるインターフェースに加え、所蔵情報のクエリー、返戻が可能であること。
2	11	3	2	OpenURLの受信機能を実装すること。
2	11	3	3	リンクリゾルバと連携し、リンクリゾルバの提供するAPIの組み込み(書誌詳細画面における閲覧可能な電子ジャーナル・電子ブックの一覧を表示等)ができること。
				(性能、機能以外での要件)
1	1			可用性に関する要件
1	1	1		計画されたシステム停止を除き、原則として、24時間365日の稼動により常時利用可能なこと。 ただし、以下に該当する時間を除く。
1	1	2		・接続回線の計画停止時間
1	1	3		・大規模災害等の天災地変その他不可抗力に起因する停止時間
1	1	4		・受注者製造以外(第三者)のソフトウェア、OSに起因する障害
1	1	5		・本機構および本機構環境起因によるアクセス遅延および不可
1	1	6		・利用者の故意または過失に起因するサービス停止
1	1	7		・事前通知を行った定期メンテナンス、緊急メンテナンス
1	2			継続性に関する要件
1	2	1		以下に、機能停止等の原因となる事象の規模に応じて継続性に係る目標値を示す。
1	2	1	1	・予測可能な障害発生時
1	2	1	2	予測できる障害(一時的な過負荷等)については、本機構と協議の上、あらかじめ業務停止を回避するための対策を講ずること。
1	2	2	1	・業務停止を伴う障害発生時
1	2	2	2	予測困難な事象により業務停止を伴う障害が発生した場合の目標復旧時間(RTO)、目標復旧レベル(RLO)及び目標復旧時点(RPO)を下表に示す。なお目標復旧時間(RTO)は平日(土・日・国民の祝日に関する法律に規定する休日は除く)9:00から17:30を前提とする。

				(要件)
1	2	2	3	■業務システム 目標復旧時間（RTO）：24時間以内 目標復旧レベル（RLO）：通常どおりのサービスレベルに復旧 目標復旧時点（RPO）：停止前の最新バックアップ状態へ復旧
1	2	2	4	■OPAC 目標復旧時間（RTO）：12時間以内 目標復旧レベル（RLO）：通常どおりのサービスレベルに復旧 目標復旧時点（RPO）：停止前の最新バックアップ状態へ復旧
1	3			大規模災害発生時
1	3	1		目標は定めない。
1	4			データバックアップ
1	4	1		システムのバックアップを行い、システム異常時には速やかに復旧すること。バックアップは7世代以上保存すること。
1	4	2		バックアップしたデータの保管場所にはアクセス権限を付与し、管理者以外がアクセスできないようにすること。
2				データ移行
2	1			現行運用中のシステムからのデータ移行ができること
2	1	1		・日本電気株式会社製「E-CatsLibrary」からのデータ移行ができること。 （小児医療センター）
2	1	2		・株式会社エルエスアシスト製「司書アシスト」からのデータ移行ができること。 （循環器・呼吸器病センター、がんセンター、精神医療センター）
2	1	3		現行のデータは正規化を行った後移行すること。なお正規化の条件は本機構職員と協議を行い、必要に応じてプログラムチェック、リスト出力の処理を行った後、移行すること。
2	1	4		本番移行時の図書館システムの停止を極力少なくすること。最大でも7日間の停止期間とすること。
3				支援・保守体制等
3	1			業務に支障のないよう、万全の保守体制と障害対策が速やかにとられること。
3	2			システムの稼働及び運用に際して、本機構の要求に応じて援助協力すること。
3	3			本機構または本機構の指定する者から、電話、電子メール、FAX等による本システムに関する問い合わせへの対応を行う体制を有すること。なお問合せの受付時間は、平日（土・日・国民の祝日に関する法律に規定する休日は除く）9:00から17:30までとする。
3	4			システムにバージョンアップがあった場合には、速やかに連絡し、本機構と協議のうえ必要な場合はバージョンアップを行うこと。
3	5			ソフトウェアについての日本語による基本マニュアルを印刷物で各センター毎に1部提供すること。併せて、PDF等の電子ファイルあるいはオンライン形式で1部提供すること。
4				契約期間終了時
4	1			契約期間終了後において、本サービスの利用を継続する場合、月額利用料のみの支払いで継続利用が可能であること。
4	2			本サービスの利用を終了するときは、データの抽出を無償で行うこと。
4	2	1		XML、CSVファイル等の汎用形式で出力できること。